



子どもたちの居場所づくりについて

池田 和子

問 子ども食堂開設の考えは。

答 運営資金の確保、行政の支援の在り方など十分に検討する必要があり。地域の意見や他市の成功事例を参考に、当市の実情にあつた子ども食堂の開設について研究していきたい。

問 ひとり親家庭サロンの期待される効果は。

答 先月は6名の方が参加。交流や情報交換の場をつくることで、孤立し



孤食を防ぐ子どもたちの居場所づくり

がちなひとり親の方の不安が解消されることや、生活の自立に向けた支援などの情報を得たり、実際の支援につなげたりすることなどの効果が期待できる。今後、定期的に開催したい。

問 市民への周知や研修会などを行う考えは。

答 県で開催されるフォーラムなどを活用しながら、情報提供を行う。地域の状況を考慮したうえで、支援をしていきたい。

問 今年度、どのくらいの相談があり、納税につながるの成果についての見解は。

答 4月から11月までに火曜日の延長窓口では、35回の開設。相談者が17人、納税者が188人、延べ205人が窓口に来庁。月末日曜日の窓口は、8回の開設。相談者が29人、納

税者が146人、延べ175人が窓口に来庁。一定の成果が上がっており、今後も継続していく予定。

防災士について

問 資格者の男女別の人数は。

答 平成29年10月末日現在、市内に33名の防災士、うち女性2名。

問 消防団OBなどの防災士への登用についての見解は。

答 消防団を通じて促して参りたい。



行幸啓を後世に伝える記念碑を

山田 一繁

問 9月20日の天皇皇后両陛下行幸啓後の巾着田への来客状況は。

答 天候の良い日が続き、多くの来客があった。会場では天皇皇后両陛下がご来場になったこと、当時の様子を訪ねるお客様が多く、特に24日の日曜日は1日の来場者数が2万5千人を超え、この5年間で最高となった。

問 昭和天皇陛下は過去3回日高市を訪れている。

昭和天皇行幸記念碑は現在、武蔵高萩駅さくら口前の個人宅に建立されている。

問 過去の実績に甘えることなく、巾着田をより良い形で次世代へ継承してゆかためにも、これからの対応が重要となる。集客力アップについて今後の対策と展望は。

答 知名度は格段に向上したと考えられ、来年以降、今までの来客が予想される。巾着田の原

風景の維持という原則を念頭に置き、集客のために必要な整備を進め、PRも強化していく。

道徳の教科化について

問 物事を多角的に考える道徳はすべての教育活動につながる。道徳の教科化は改めて教師の力量が試されている。教科化によって何がかわるのか。

答 子どもたちの自尊心や生命に対する想像力、社会参画意識の不足などがいじめや暴力行為などの問題行動につながっている。その状況を打開するために、道徳教育の意義や可能性を見直す。副読本は副教材扱いで、費用は市の負担だったが、平成30年度の小学校、平成31年度の中学校からは国の検定教科書の中から教育委員会が採択し、国から無償で給付する方法となる。



武蔵高萩駅さくら口 佐久間家敷地内の行幸記念碑